

## ＜新任教員プロフィール＞

### 永野 仁

（専任講師 労働問題）

永野さんの主著は『企業グループ内人材移動の研究』（多賀出版，1989年）という非常に面白い研究である。それは、私の経済学の研究のスタートが「労働力移動論」であったから、私にとって特に興味があるのだが、しかし、永野さんのこの研究は、アメリカで発展した労働市場理論と、日本企業の多くの事例の実証的な研究に裏付けられた、すぐれた業績として、学界で認められている。

永野さんは、必ずしもめぐまれた環境で研究生活をスタートされた方ではない。工業高等専門学校で機械科を卒業後、電気会社に勤務しながら青山学院大学の2部を卒業された努力の人である。その後、本格的に学者の道を志し、青山学院大学の大学院および慶応義塾大学の大学院で労働経済学を専攻された。数少ない女性経済学者であり、学部長を務められて有名になったばかりでなく、屈指の労働経済学研究者の佐野陽子教授の下で研究をかさねて、学位を得られたが、その間、日本労働研究機構の研究員として、また青山学院大学の講師として、かなり長い期間、研究と教育にたづさわってこられた経験をもっておられる。

これまでの勤務先の職務の関係から、主として労働問題の実態調査にたづさわってこられたが、けっして調査の技術者にとどまる方ではない。それは、これまでに発表された論文や学会報告による、労働市場理論への貢献が物語っている。温厚な人柄と粘り強い研究意欲をそなえた若手（業績も経験も豊富だが、私より若く体力も研究意欲も旺盛という意味で）研究者をむかえて、社会政策部門の研究と教育に大きく貢献していただけることを心強く思っている。

家庭では、こよなく優しい、二児のパパである。 （兼清弘之・記）